

まんが 子ども太平洋戦争物語

# 焼けあとに眠る

横浜大空襲日記

# 約束の絵



画・守谷哲己

この物語の背景となった  
おもなできごと

1931年(昭和6年) ●満州事変が起こる。

1933年(昭和8年) ●日本が国際連盟を脱退する。

1937年(昭和12年) ●日中戦争が始まる。

1939年(昭和14年) ●第二次世界大戦が始まる。

1941年(昭和16年) ●太平洋戦争が始まる。

1942年(昭和17年) ●日本本土がはじめて空襲される。

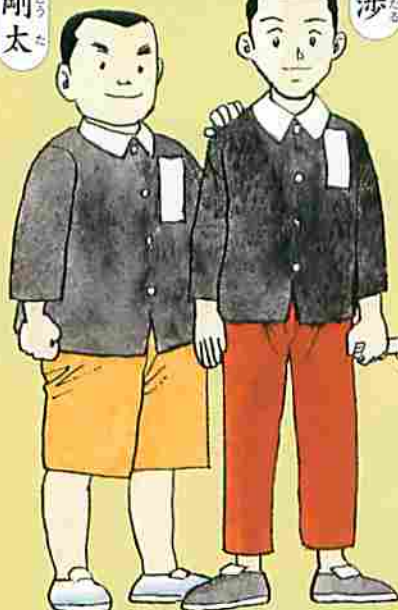
1945年(昭和20年) ●東京などが大空襲にあう。

●広島・長崎に原子爆弾が  
落とされる。

●日本はポツダム宣言を  
受け入れて降伏する。

この物語の  
主人公

高木 渉



高木 桜子

有田夕子



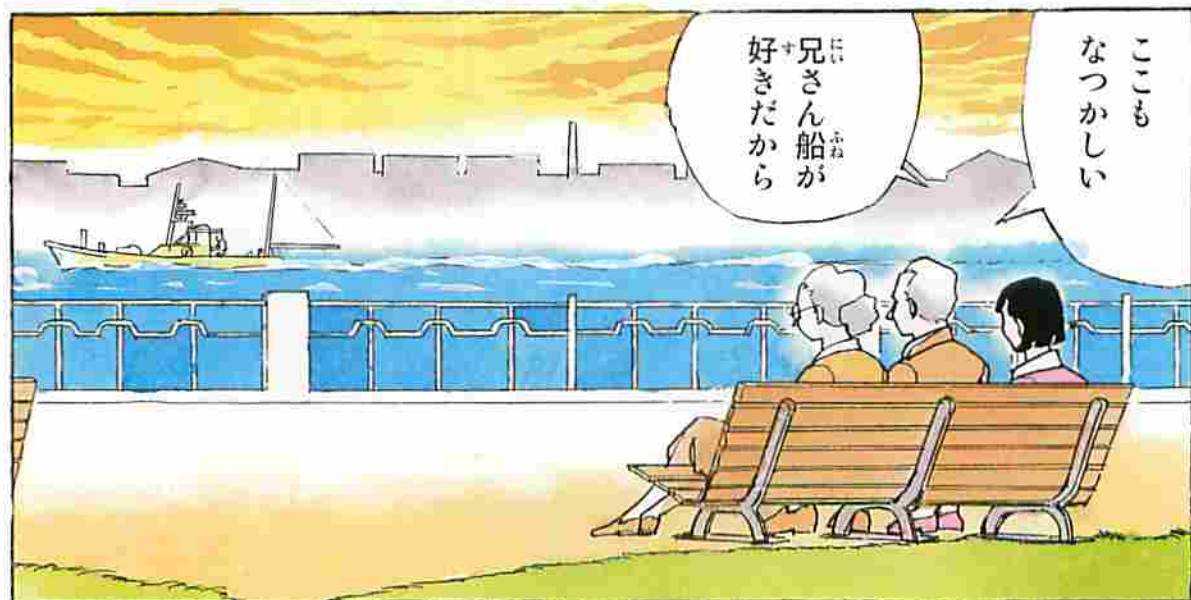
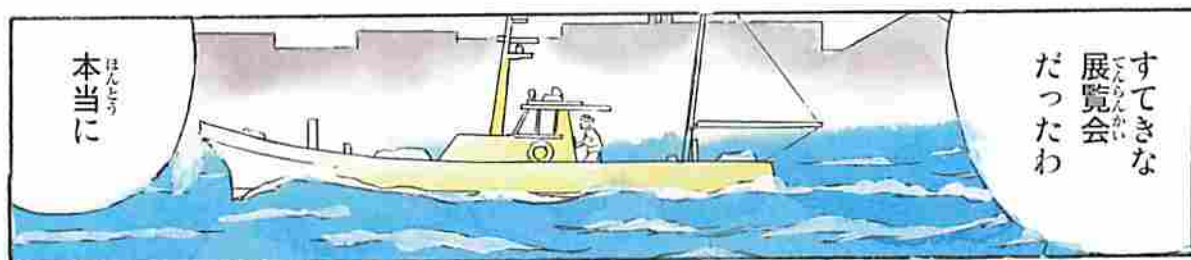
滝川サチ

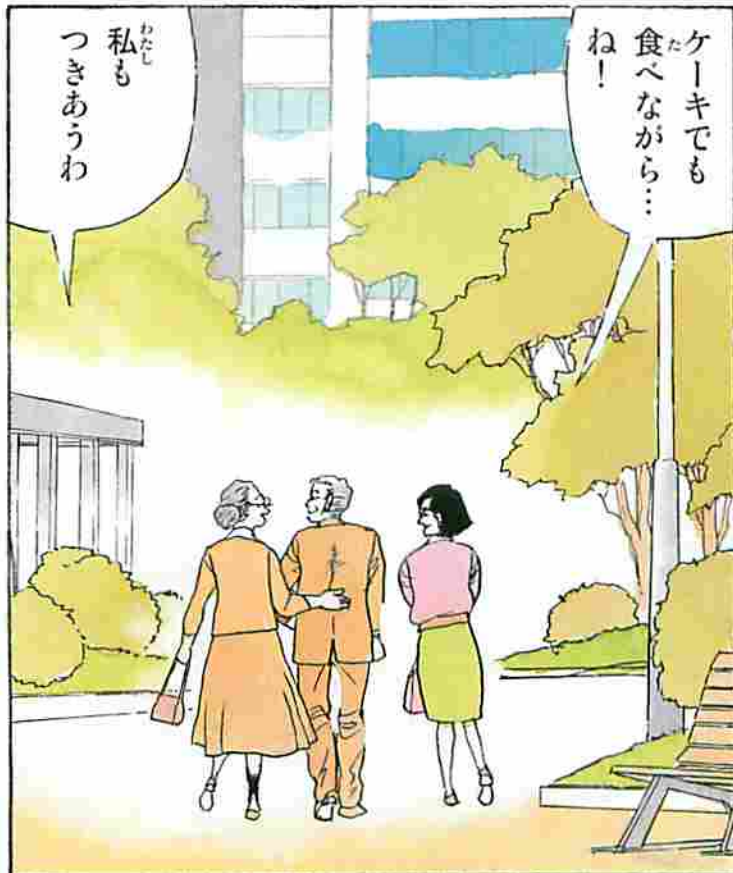
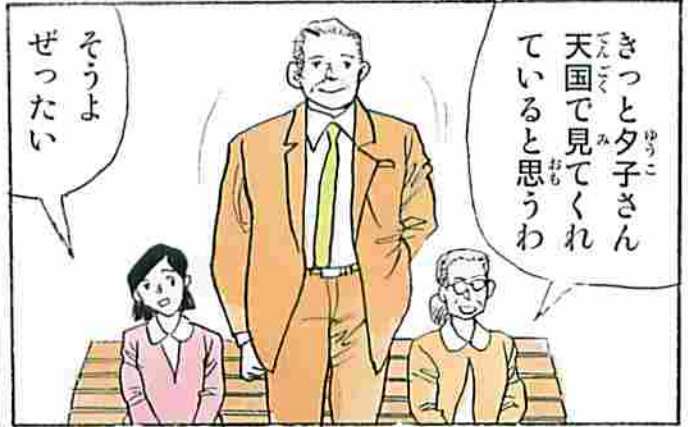
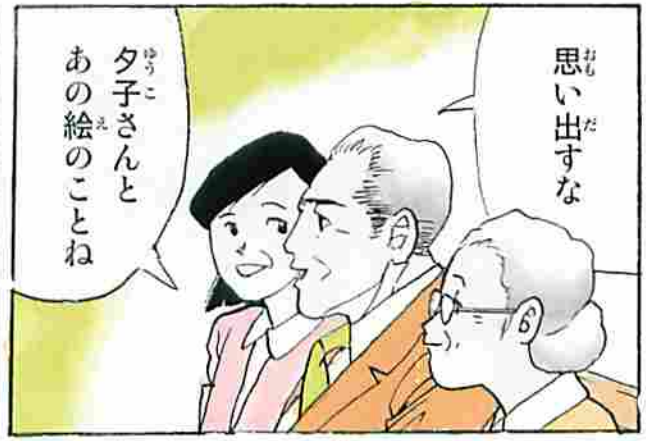
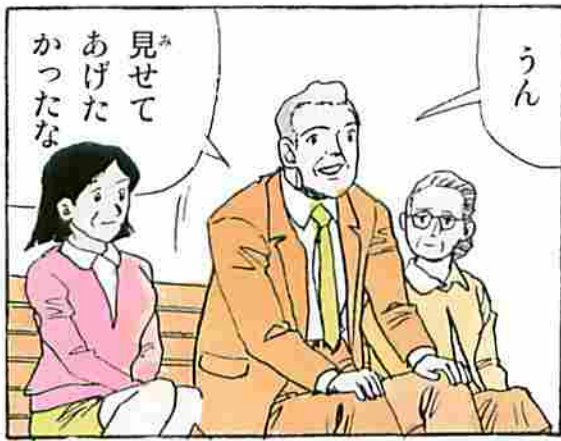
夕子の隣に住む  
女学生

渉たちの友達

渉の親友

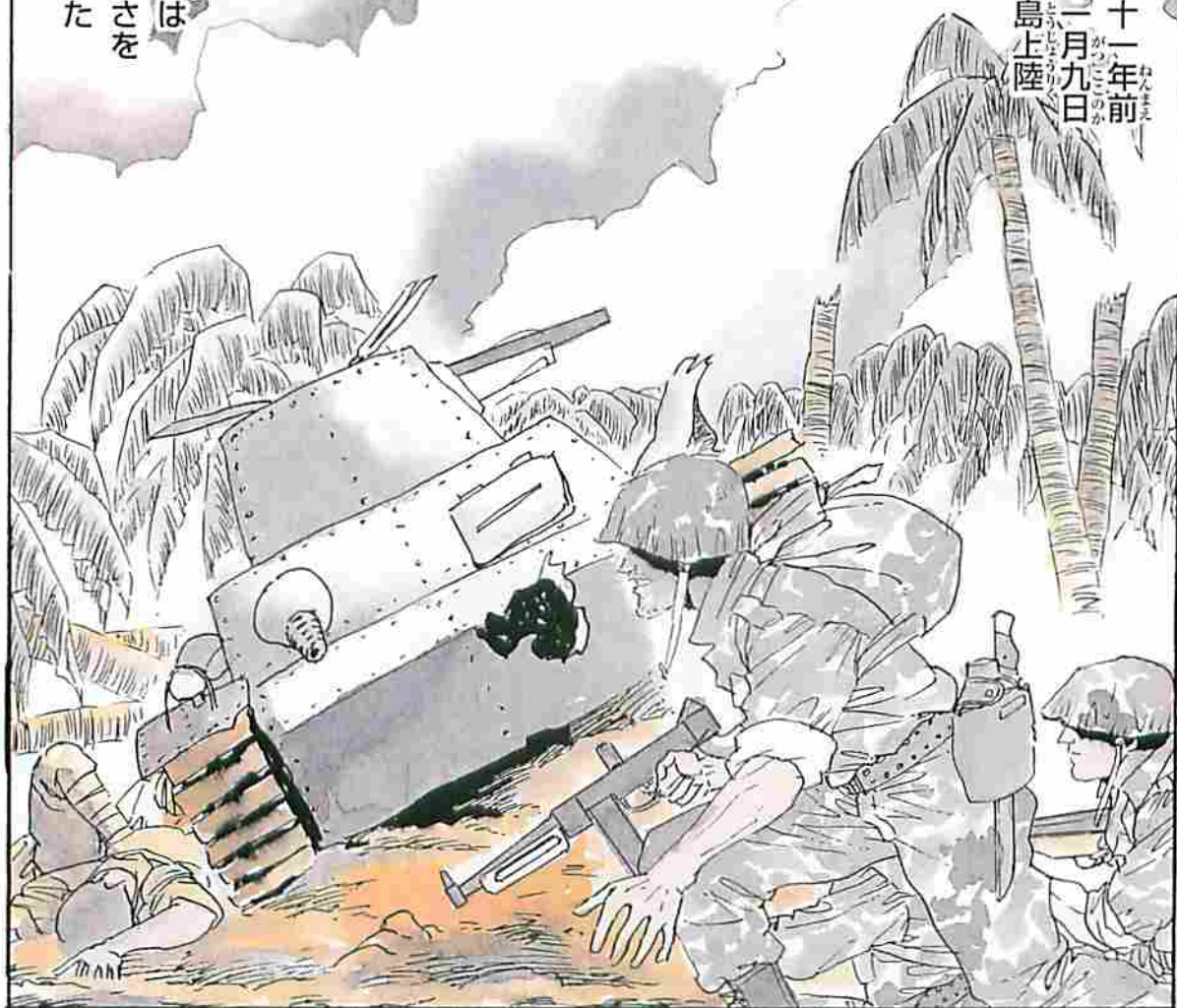
平成十八年三月  
横浜の山下公園



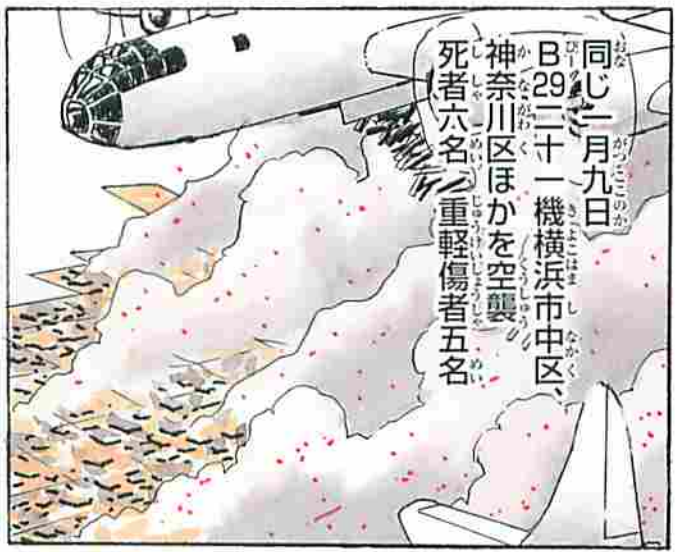


いまから六十一年前  
昭和二十年二月九日  
米軍ルソン島上陸

太平洋戦争は  
一段と激しさを  
増していった



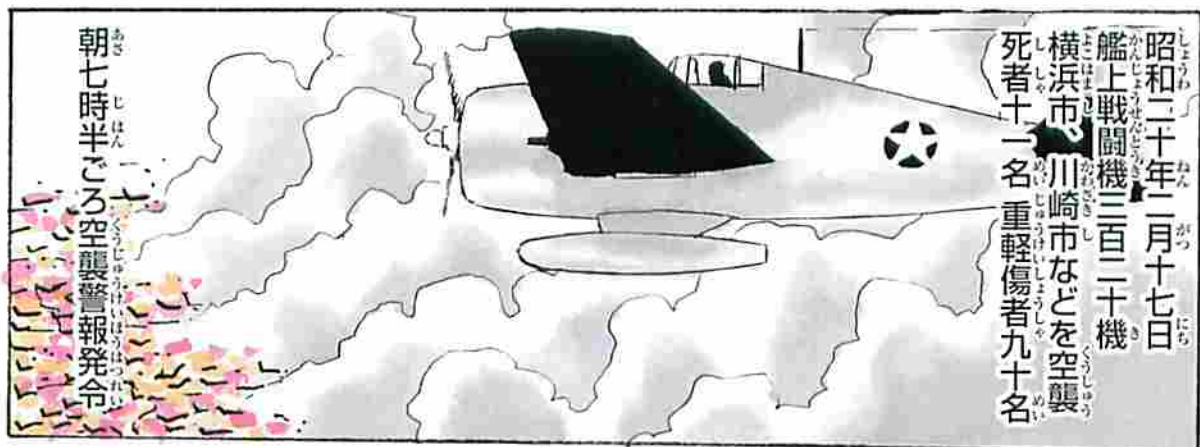
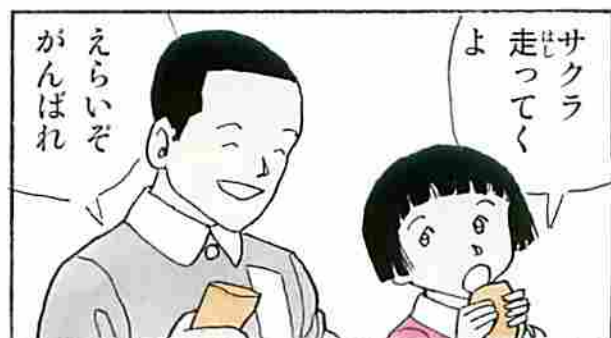
同じ二月九日  
B29二十一機横浜市  
神奈川区ほかを空襲  
死者六名、重軽傷者五名



横浜市中区  
伊勢佐木町の南側  
歩いて約十分のところ  
私たちの家があった

今日も  
イモかい？





防空壕にひなんしても、空襲の恐怖は消えなかった。

空襲が始まると、人々は爆弾からのがれるために「防空壕」という穴にひなんしました。穴は家のゆか下をほったり、庭に「メートルほどの深さの穴をほって、砂の入った袋と板でふたをしたりしてつくりました。横浜は丘が多かったので、ほら穴のようにしゃ面に横穴をほるところもありました。

空襲警報がだされると、この物語に登場する「防空壕」に「げ」みました。また、ぐう然その穴の近くにいた人もかけこんだため、入り口まで人であふれることもありました。穴の中は息苦しく、居心地のいいものではありませんでした。

【防空壕】



行くよ！

母ちゃん  
こわい



あーいよ！

逃げよう！

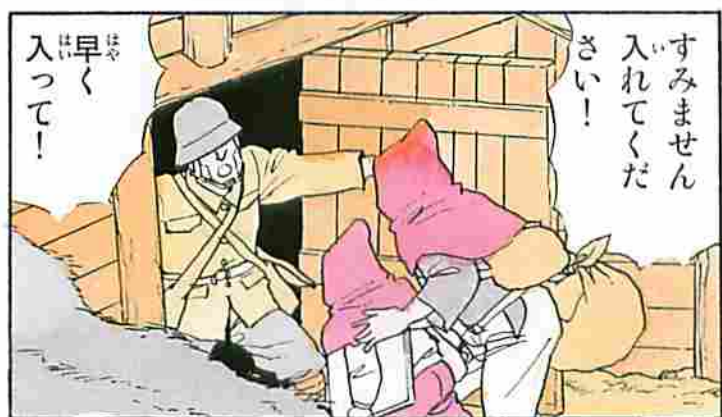
早く！  
母ちゃん



早くここに  
入るんだよ！

早く早く  
早くっ

早く！  
早く！



すみません  
入れてくだ  
さい！

早く  
入って！



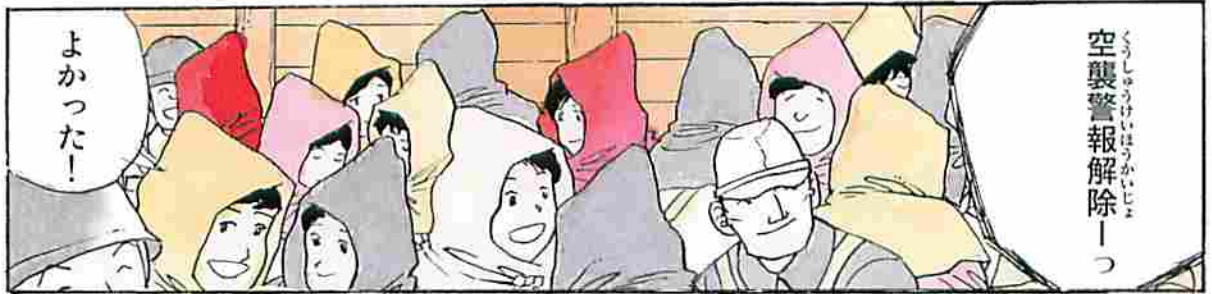
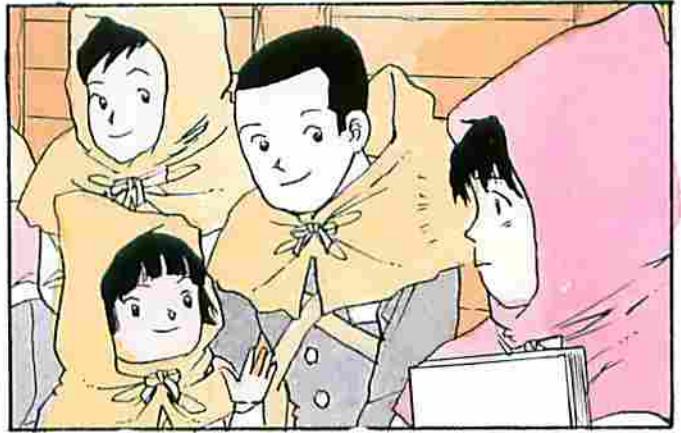
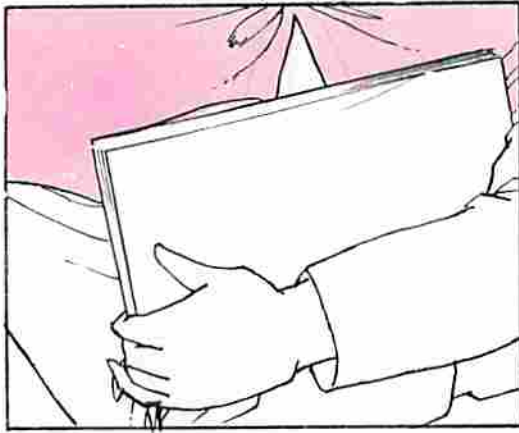
奥につめて  
ください！

いたいっ  
おさないで！

もう  
いっぱいだ！  
入れないぞ！

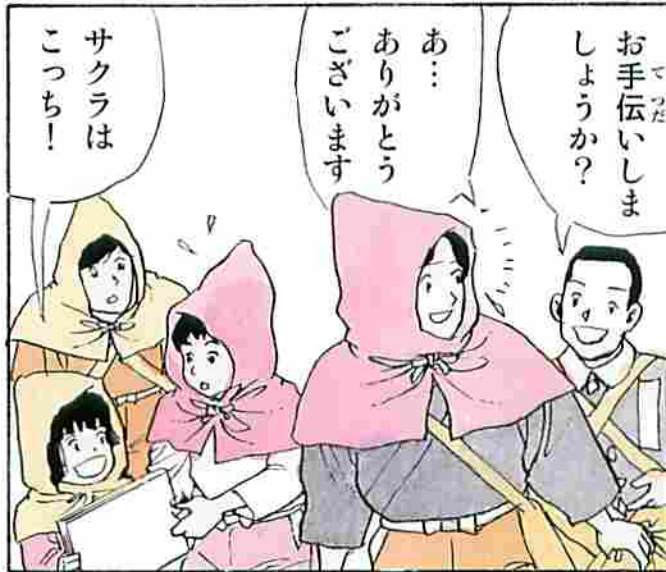


ありがとう  
ございます



よかった!

空襲警報解除ーっ  
くうしゅうけいほうかいじょ



お手伝いしま  
しょうか?

あ：  
ありがとうございます  
ございます

サクラは  
こっち!



やれやれ…

ハハハ…



ワタル  
ご迷惑よ

だって大変  
そうだもん

助かるわ  
本当に…







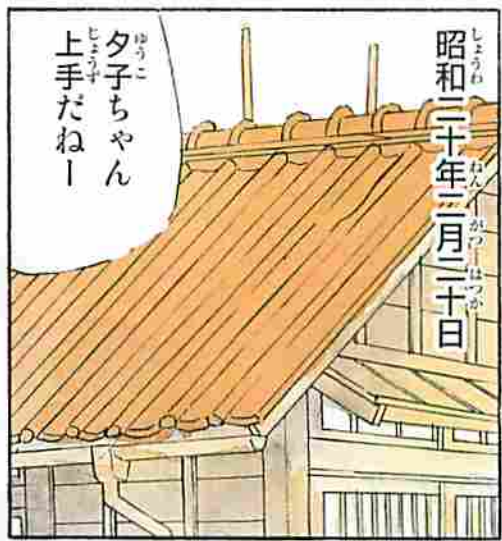
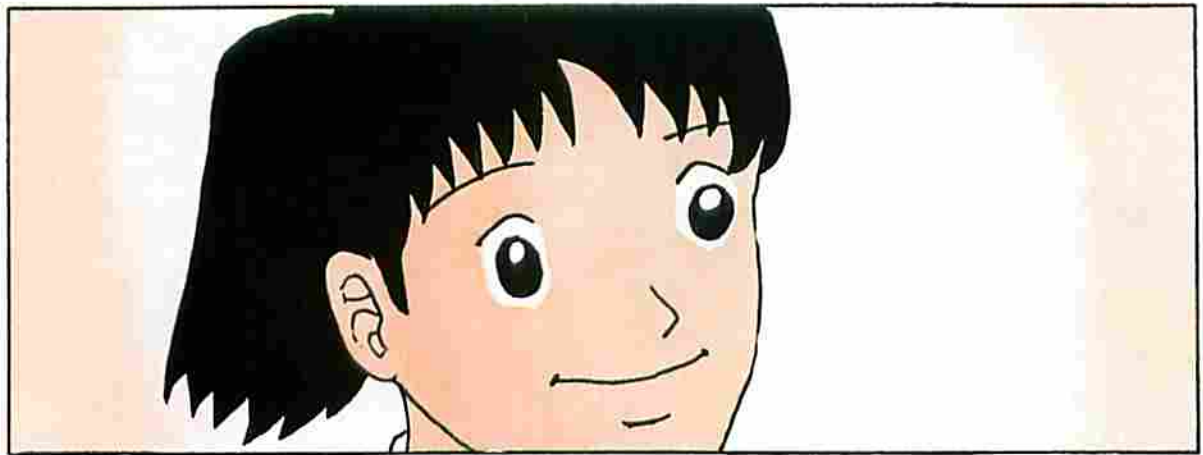
おれ：  
絵持って  
くるよ



いいで  
しょう

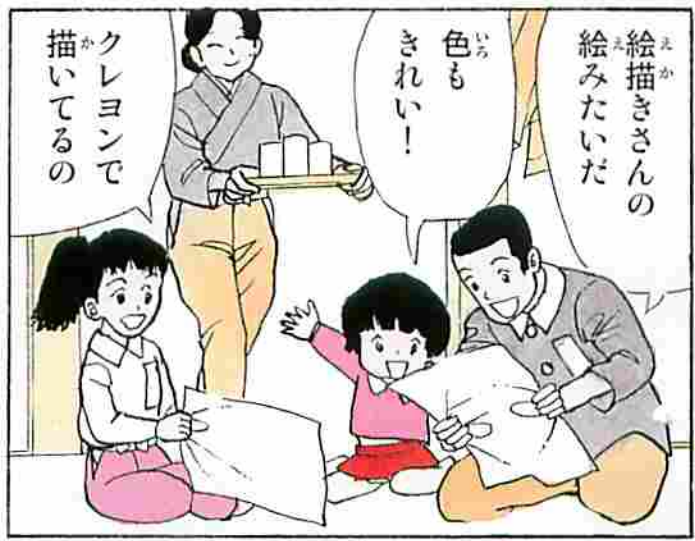
サクラも  
持って  
くるー！

ええよかつ  
たわね  
夕子ちゃん



昭和三十年二月二十日

夕子ちゃん  
上手だねー



絵描きさんの  
絵みたいだ

色も  
きれい！

クレヨンで  
描いてるの

【クレヨン】

日本に「クレヨン」が登場したのは大正六年ころのこと。アメリカから輸入したものを東京の会社が売り出しました。

そのころ、「クレヨン」はまだ高級品だったので、子どもたちが絵をかくときには、もっぱら色えんぴつを使っていました。その後、大正十年ころから国内でも「クレヨン」をつくり始め、ねだんが安くなったので、子どもたちの間にあつという間に広まりました。

戦争中は物が少なくなつたので「クレヨン」も配給制となり、かんたんには手に入らなくなりました。物語のなかの涉たちがクレヨンを大切にしているのはそのためです。



昭和22年に発売された国産のクレヨン。





軒下などにつるしてごはんを干した。  
(当時のようすを再現したもの)

**【干し飯かしのい】**

「干し飯かしのい」はほぞん食として日本に古くから伝わっていました。旅人がお弁当として持ち歩いたり、戦国時代には戦いの時に持っていく食料として利用されたりしていました。

つくり方は、まずお米をたいてご飯にし、それを水あらいします。水あらいしたご飯をざるに広げ、干してカラカラにかわかすまできあがりです。

食へるときはお水やお湯にひたし、やわらかくします。また、そのままよくかんで食へることもできます。

お米はなかなか手に入らない貴重なものだったので、人々はこのようにほぞん食にして大切に食へました。



新しい  
クレヨンだ！

わアすげえ



はいこれ！

ワタルくん  
サクラ  
ちゃん

え！？



こっちは  
カボチャや  
ダイコンよ

これは  
うちの庭で  
つくったのよ

おうちで  
食べてね



ふたりとも  
クレヨンで  
いい絵を  
描いてね

うん

こんど  
写生に行こう！



母ちゃん  
よろこぶ  
ねー！

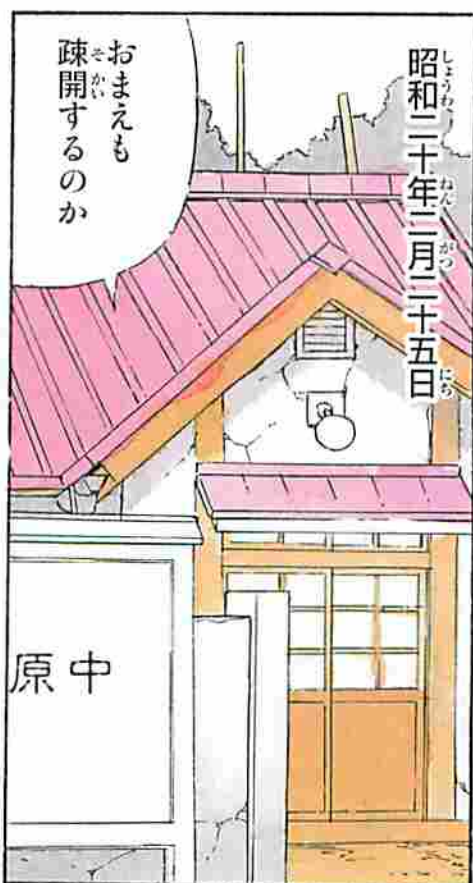


近所の人々が協力しあって畑をつくった。

戦争が激しくなり食べ物  
が足りなくなると、人々  
は畑をつくり、野菜を育て  
ました。空き地や校庭はも  
ちろん、せまい庭もすべて  
たがやしました。  
一番多くつくられたのは、  
手をかけなくてもよく育つ、  
カボチャでした。大切な食  
べ物を少しもむだにしない  
ように、種も花も葉もすべ  
て食べました。  
食べ物がたくさんあると  
きなら捨ててしまうような、  
野菜の皮やくきはもちろん、  
道ばたに生えている草や花  
も食料にして飢えをしにい  
だのです。当時の人々は、こ  
のようなものを少しでもお  
いしく食べるために、いろい  
ろな工夫をしなければなり  
ませんでした。

### 【食料事情】

しほりょうじ





手紙書くよ  
サクラも書く！  
サクラはいいよ



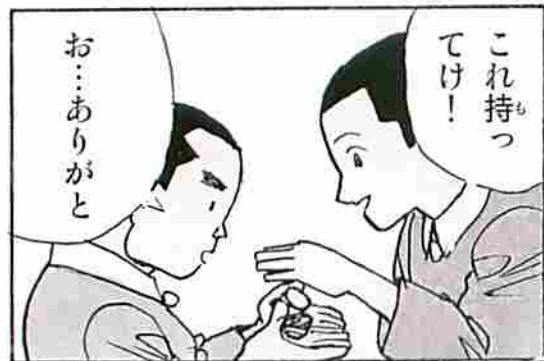
おまえはケンカつ早いからな  
ダメよ仲良くしな  
くちや！  
はは：



女の子からの手紙がきたのを見られたらおれがはずかしいだろ



なんでよー！



これ持つてけ！  
お：ありがと



ならおれの手紙に入れて送るよ  
だったらいいや



次の日  
親友の中原剛太はひとりですべて疎開していった



おまえも空襲に気をつけろよ  
ん！



疎開先でも、軍隊のような訓練があった。

【縁故疎開】  
戦争中、都会の人々は空襲からのがれるために、家庭ごとに地方の親せきをたよってひなんしました。これを「縁故疎開」といいます。さらに空襲が激しくなると、国の決まりで、子どもたちは学校ごとに集団で疎開するようになりました。  
物語の中の剛太のように、きけんがせまってから子ども一人で疎開することもあり、疎開先の学校になじむことができず、苦勞する子どもも少なくありませんでした。  
また、軍隊のような訓練や農作業などのしごともあり、子どもたちはたいへんな思いをしました。



### 【灯火管制】

物語の中で、涉は電灯の  
ま下しか明るくならない部  
屋で絵をかいています。電  
球におおいをかぶせ、家の明  
かりが外にもれないように  
しているからです。

これは「灯火管制」といっ  
て、夜の空襲のとき、明かり  
がもれて敵の飛行機にねら  
われるのを防ぐための決ま  
りでした。

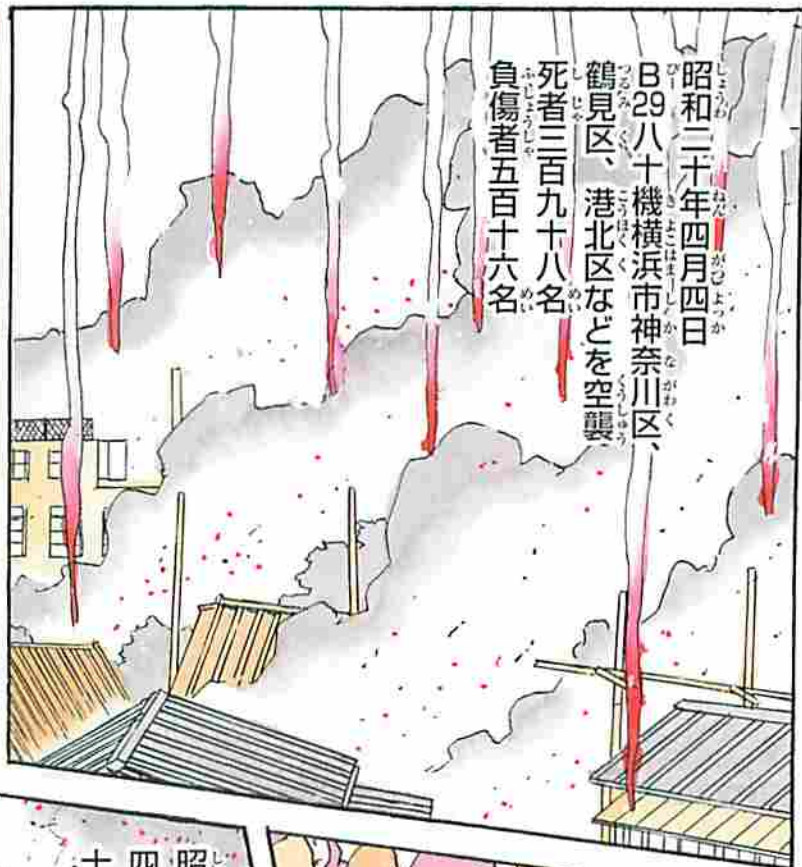
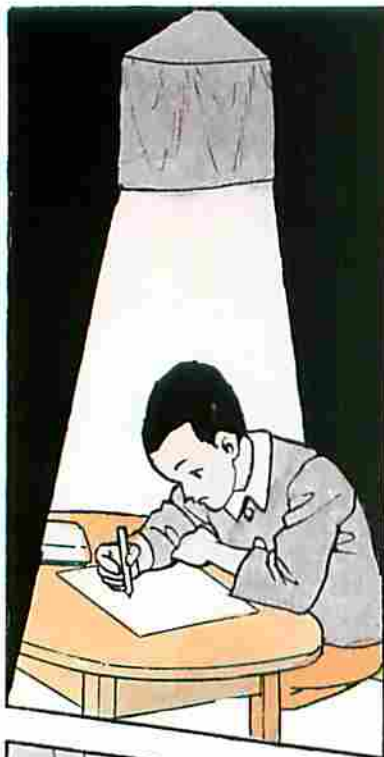
電球を黒い布や紙でおお  
つて光をさえぎる方法と、  
電球そのものを黒くぬつて  
光が広がらないようにする  
方法とがありました。

人々は涉のように、わず  
かな光の下で食事をしたり、  
勉強をしたりしていました。  
戦時中は自分の家の中  
でも不自由なことがたくさ  
んあったのです。

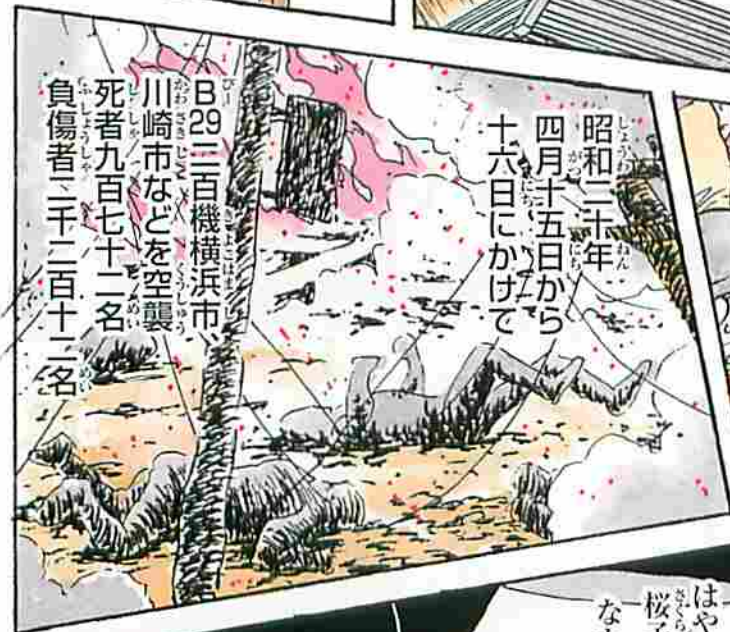


光が広がらないように  
色をぬった電球。



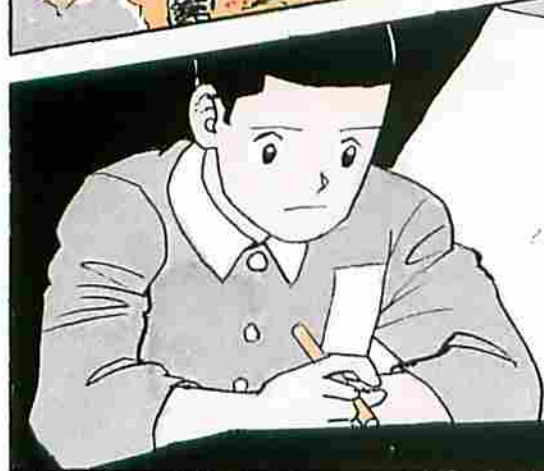


昭和二十年四月四日  
B29八十機横浜市神奈川区、  
鶴見区、港北区などを空襲  
死者二百九十八名  
負傷者五百十六名



B29二百機横浜市、  
川崎市などを空襲  
死者九百七十二名  
負傷者二千二百十二名

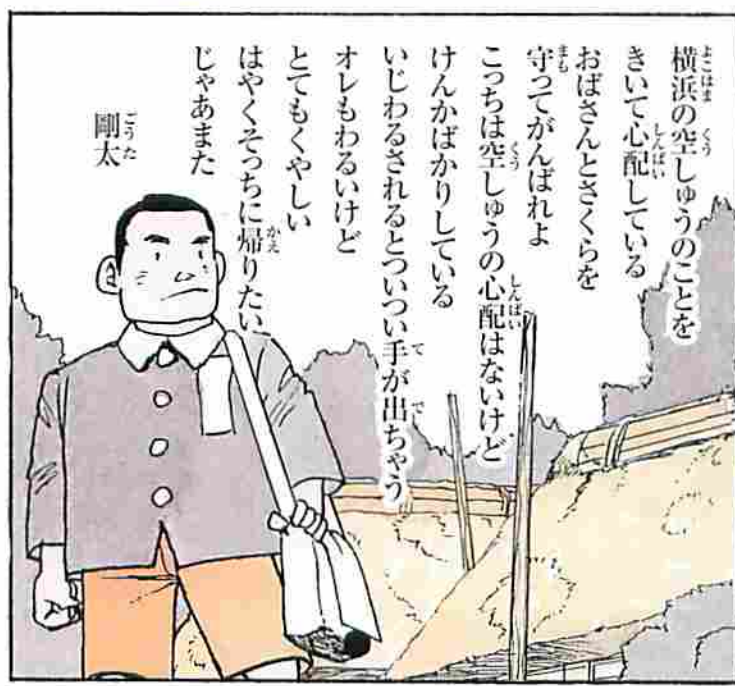
昭和二十年  
四月十五日から  
十六日にかけて



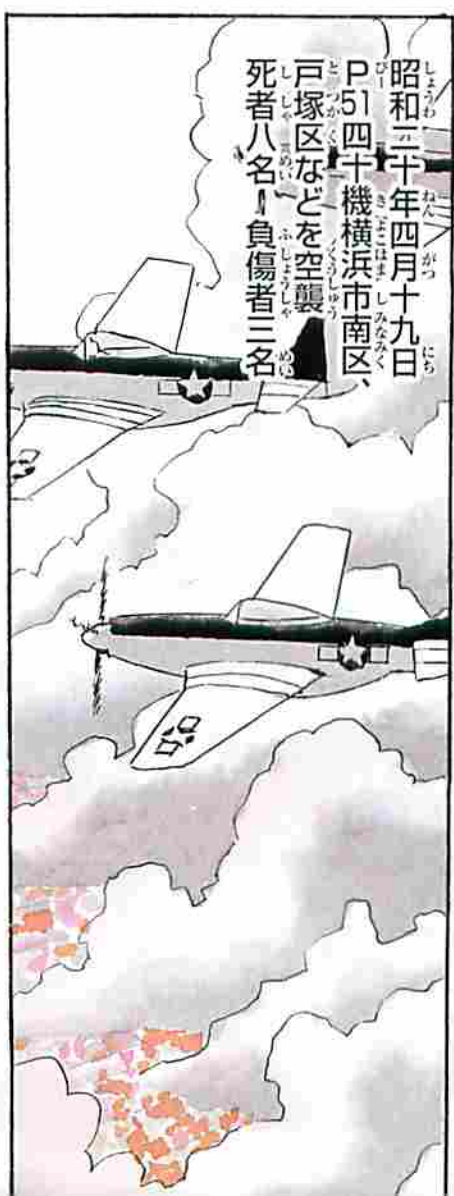
剛太 元気ですか ころちは  
空襲がはげしくなつて  
亡くなった人や焼かれた家が  
ずいぶんふえています  
でもオレの家はまだ  
だいじょうぶ  
剛太もそっちの人と  
ケンカせずがんばってください  
はやくいっしょに遊びたいね  
桜子もあまり  
なかなくなりました  
涉



三つたくん元気ですか  
ケンカしてませんか  
さくららはくうしゅうが  
こわいけどゆうきをだして  
がんばっています  
がえつてきたり  
またカルタをおしえてね  
さくら



横浜の空しゅうのことを  
きいて心配している  
おばさんとさくらを  
守つてがんばれよ  
こつちは空しゅうの心配はないけど  
けんかばかりしている  
いじわるされるとついつい手が出ちゃう  
オレもわるいけど  
とてもくやしい  
はやくそつちに帰りたい  
じゃあまた  
剛太



昭和二十年四月十九日  
P51四十機横浜市南区  
戸塚区などを空襲  
死者八名、負傷者三名



昭和三十年五月八日

どうなって  
るんだ!?

どうも  
こうもねエよ

院医原中





ワタル君  
夕子ちゃん  
絵を見たがって  
いたわよ

かわいそう



もともと  
体の弱い子  
なんだけど…

お母さん  
心配ねえ



そう  
ありがとう  
きつと喜ぶわ

サクラム  
行く!

おれ明日  
持って  
行きます



まだできて  
ないんだ  
もう少し  
なんだけど…



死者七名  
負傷者十五名

昭和二十年  
五月二十五日、二十六日  
B29五百機横浜市、川崎市、  
横須賀市、藤沢市などを空襲



でも空襲には  
気をつけてね



横浜の繁華街、伊勢佐木町も焼けた野原となった

の人がなくな  
ったとされて  
いますが、実  
際の数はその  
以上だったと  
いわれています。

記録ではこの「横浜大空襲」で三千七百八十七名もの人がなくなりました。そのわずかな差が人々の運命を変えたのです。

この空襲は昼間だったので、人々は学校や職場、あるいはそこに向かうとちゅうの路上など、さまざまな場所でのひがいにあいました。警報を聞いてすぐ、家に引き返した人もいました。そのわずかな差が人々の運命を変えたのです。

【横浜大空襲】

昭和二十年五月二十九日  
午前九時十五分、B29爆撃機は、横浜に焼夷弾を雨のようにふらせ、町をあっという間に火の海にしました。さらに戦闘機が、にげまどう人々に機銃掃射を行ったのです。



きのうの空襲も  
ひどかったし  
もう少し待てないかい？



絵ができてあがったんだ  
すぐ届けなきゃ...

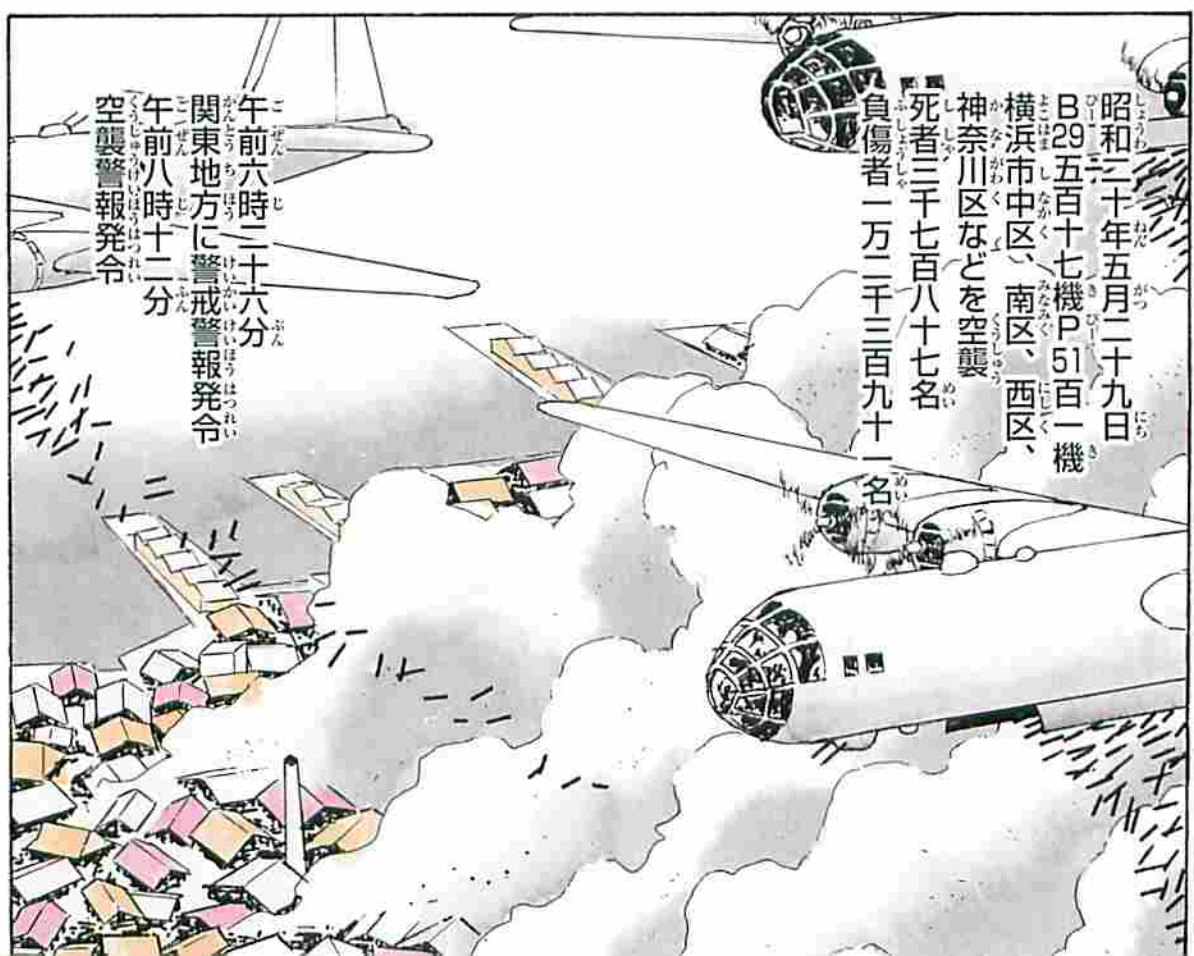
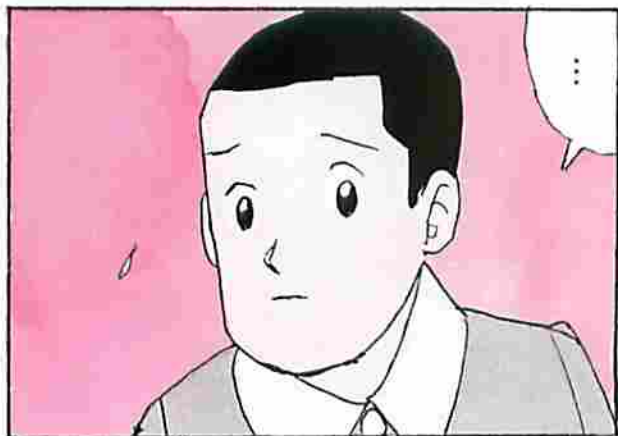
夕子さんが  
待ってるんだ

兄ちゃん  
あぶないよ



夕子さんの  
具合も悪いし

ね  
ワタル



昭和二十年五月二十九日  
B29五百十七機P51百一機  
横浜市中区、南区、西区、  
神奈川区などを空襲  
死者三千七百八十七名  
負傷者一万二千三百九十一名

午前六時二十六分  
関東地方に警戒警報発令  
午前八時十二分  
空襲警報発令



火が  
降ってきたア!

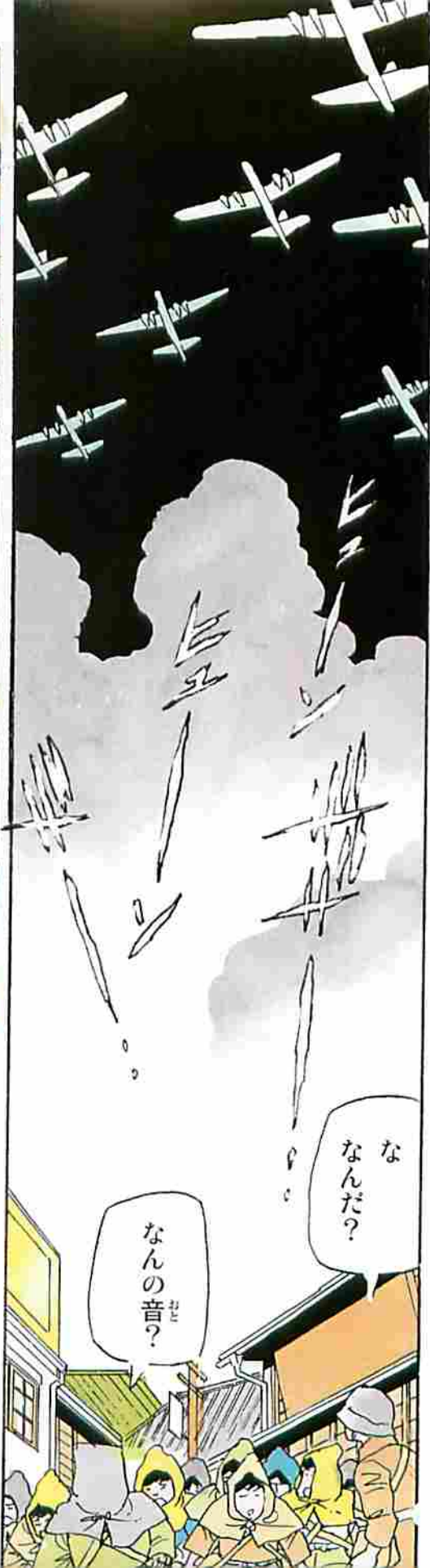
焼夷弾だア!

キヤアアア



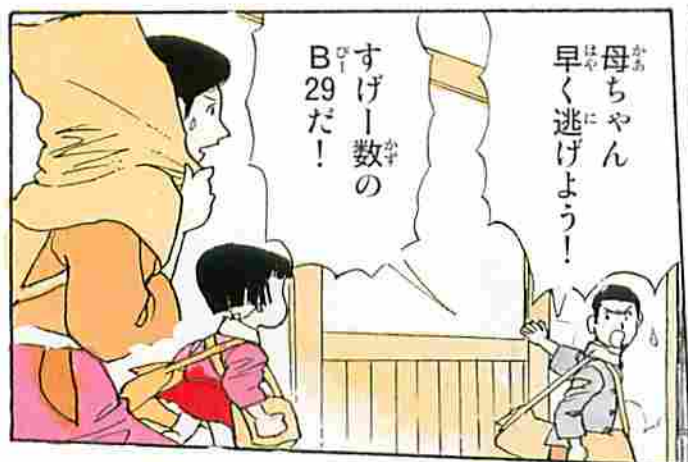
キヤアア

ヒイイ



なんの音?

なんだ?



すげー数の  
B29だ！

母ちゃん  
早く逃げよう！



大変だ！



絵を  
忘れた  
取ってくる！

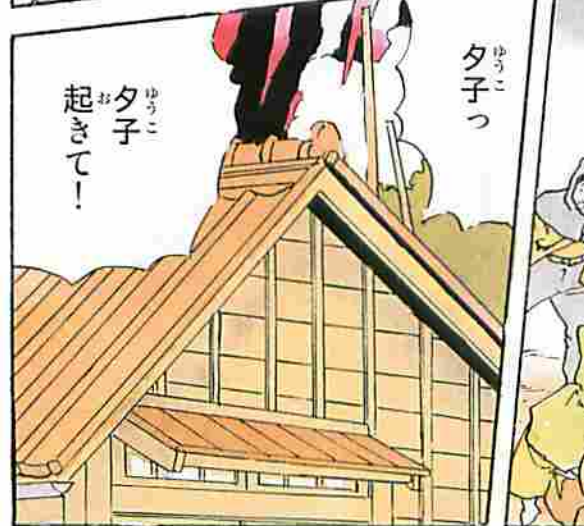
ワタル！



サクラ！  
防空頭巾  
かぶってなさい



早く防空壕に  
入るのよ！



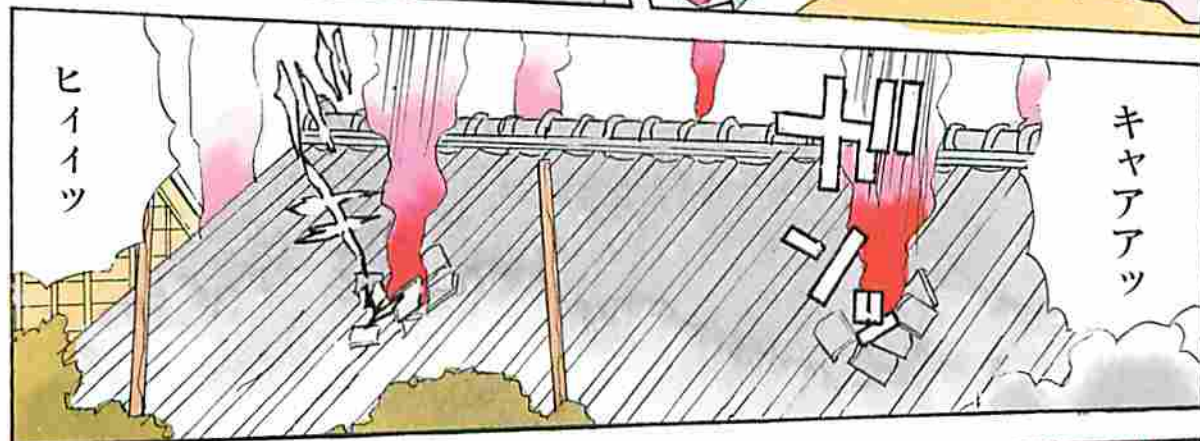
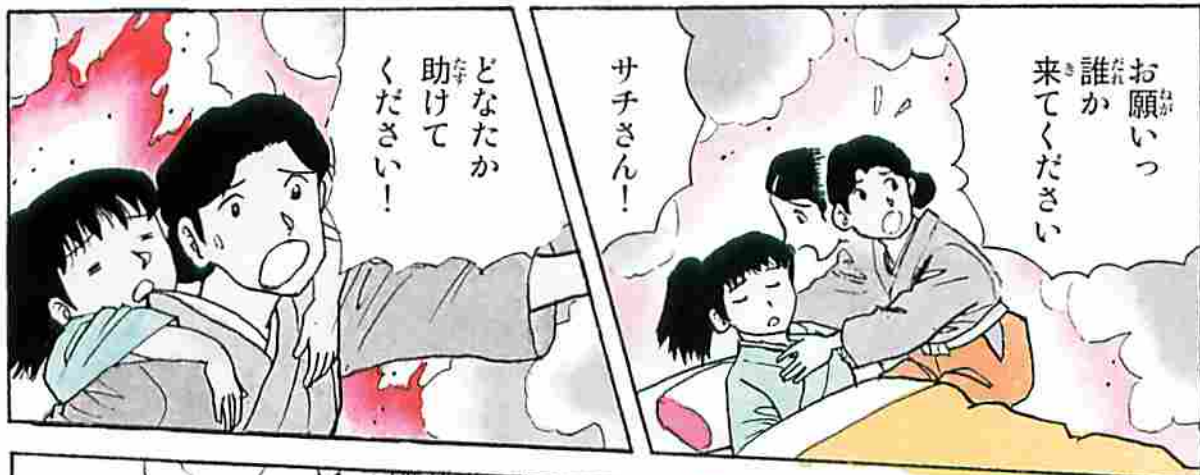
夕子っ

夕子  
起きて！

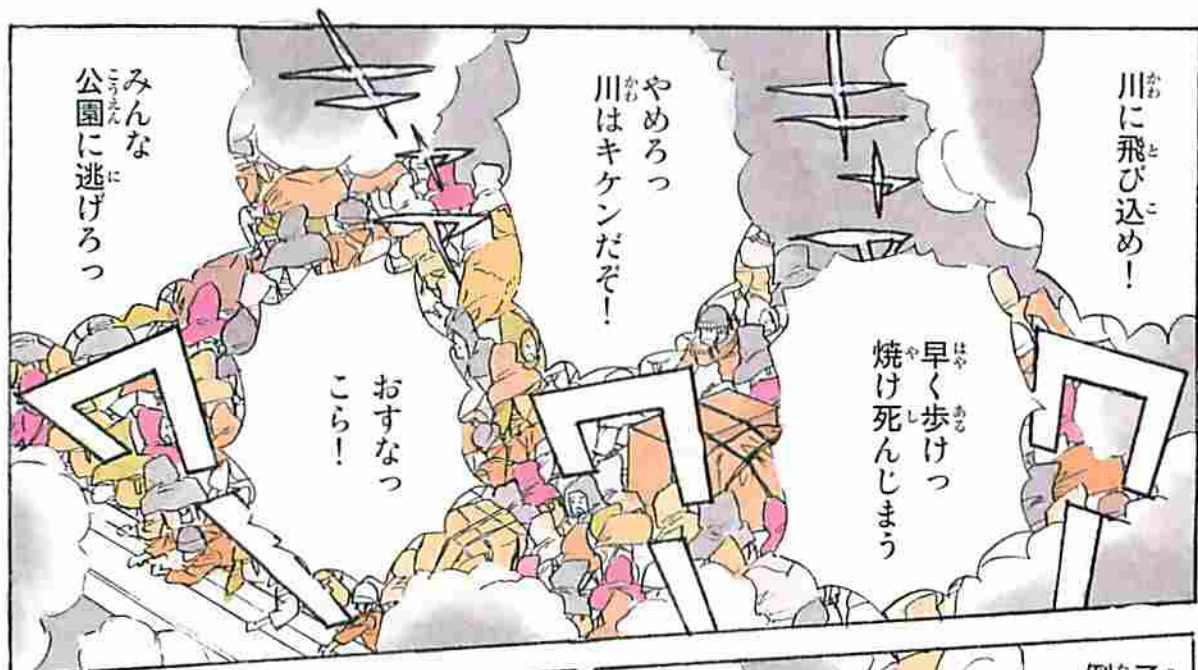
**【防空頭巾】**  
今でも災害のときに使われる「防災頭巾」は「防空頭巾」がもとになっています。「防空頭巾」は肩をおおう部分が大きくなっています。にげるときはこれに水をふくませて、火から身を守ったのです。  
戦争中の防空用の服装は、防空頭巾のほかに、もんぺ、ズックまたは地下足袋という、動きやすいかこうでした。そして、胸には血液型を書いた名札をつけ、非常用として三角巾や消毒液、ろうそく、干し飯などを入れたかばんを持ち歩く人もいました。  
戦争が激しくなってくると、人々はふだんから防空用の服を着るようになりました。



いつも空襲に備えた服装をしていた。









と  
ちや  
父ちや...



きつと  
ほかの  
壕に  
逃げたんだ

そうね

夕子さん  
来てない  
ね

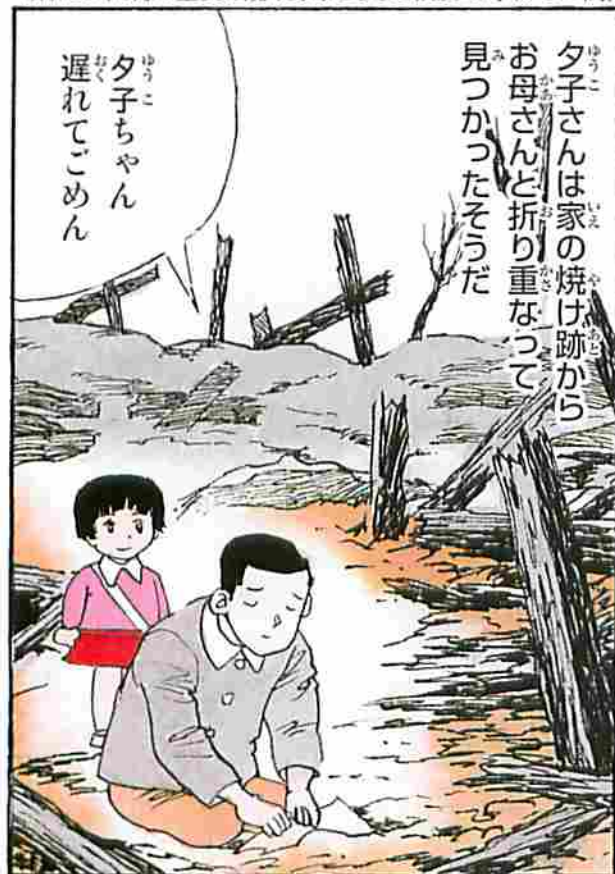


空襲が  
すんだら  
わたしに行こう



この日横浜は  
これまでになかった  
被害を受けた  
後にこの空襲は  
その規模と被害の  
大きさから「横浜大空襲」と  
と呼ばれるようになった

昭和20年5月の空襲で焼け野原となった横浜の町（いまの関内駅付近）。

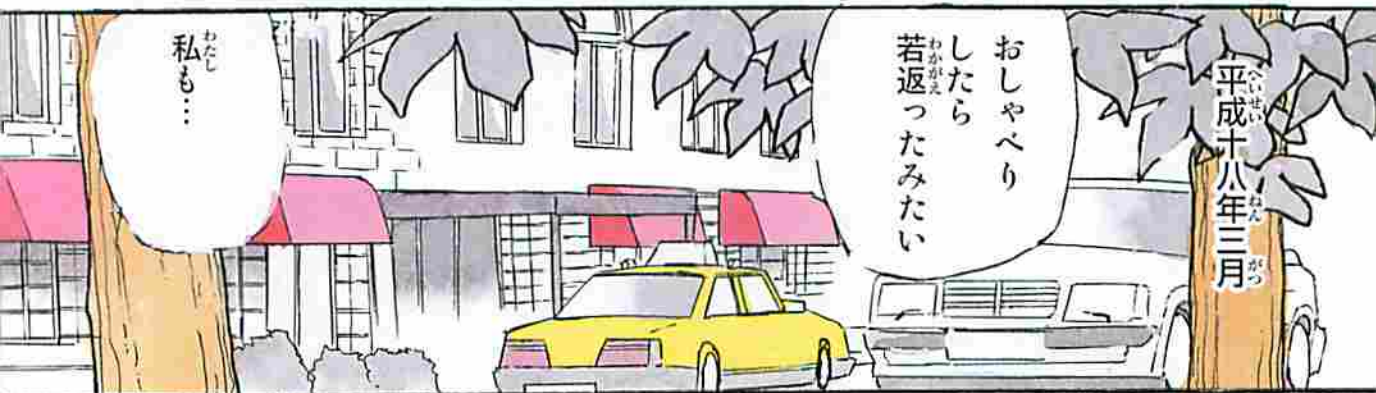
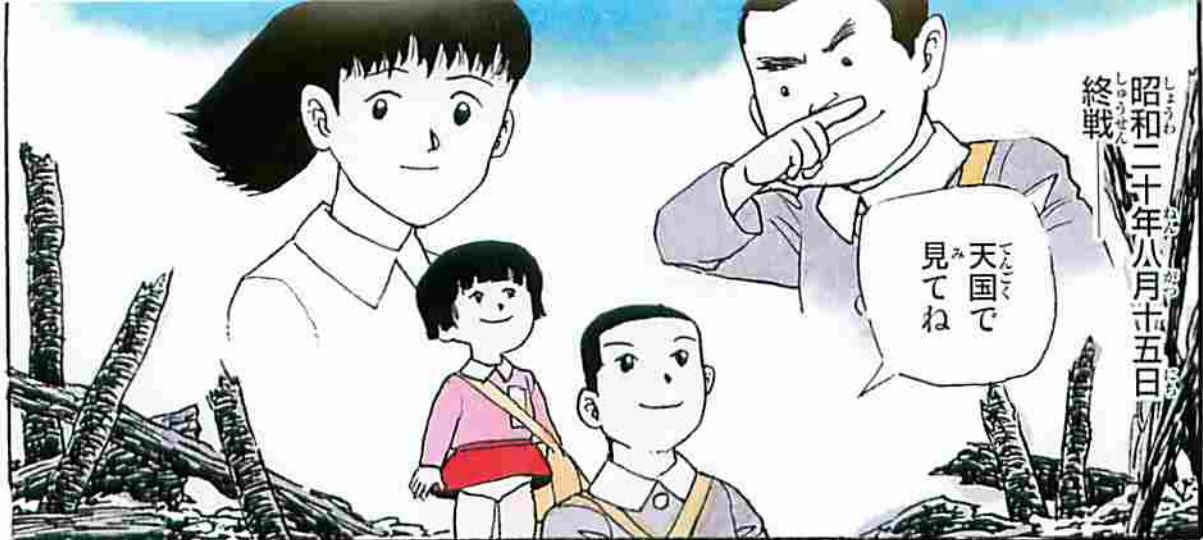


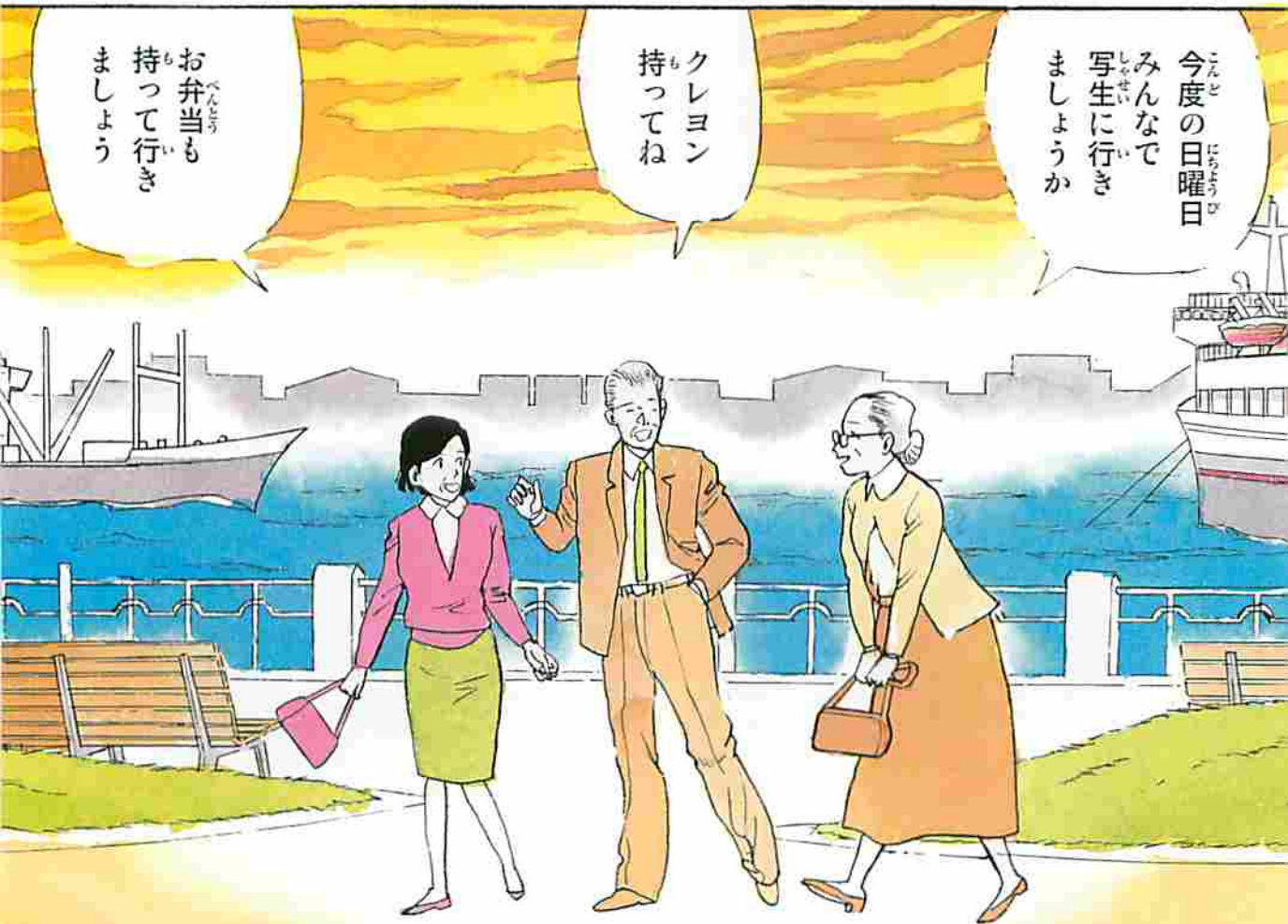
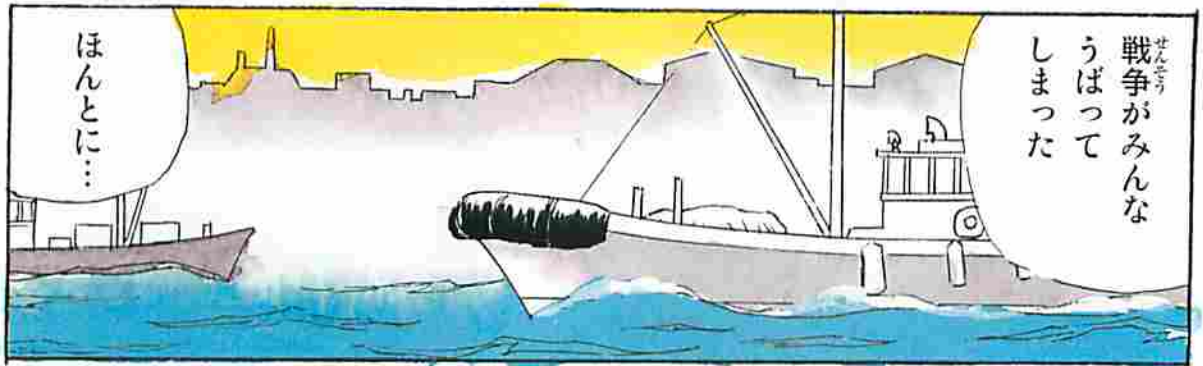
夕子ちゃん  
遅れてごめん

夕子さんは家の焼け跡から  
お母さんと折り重なって  
見つかったそうだ

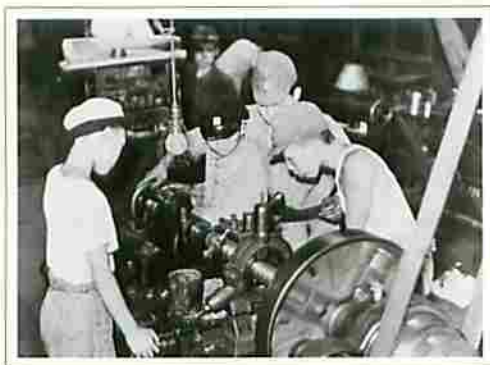


剛太の一家は  
大岡川の橋の近くで  
見つかった





# 戦争写真館



飛行機や武器をつくる工場で働く少年たち。働き手が不足したため、厳しい労働をしなければならなかった。



戦争がはげしくなると、日用品さえも自由に買うことができなくなった。わずかな配給品を受け取るために人々は長い列をつくった。



銃の使い方の訓練をする女生徒。空襲が多くなってくると、女性や子どもも戦う訓練をした。



戦争中、小学校は「国民学校」と名前を変えた。子どもたちは、戦争に協力するよう、教えられた。



昭和の初めから15歳以上の少年も、志願して航空兵になった。多くの少年が戦場へ行くことになった。

# 空襲などにあつたおもな町

1942年(昭和17)の4月から戦争が終わった1945年(昭和20)の8月までのあいだ、日本国内の以下のような町が空襲や艦砲射撃などを受けました。そして、その多くの町が何回も空襲を受けました。このほかに規模の小さなもの、軍の施設が爆撃されたものなど、実際にはもっと多くの町が空襲や艦砲射撃などを受け、全体で50万人以上(注1)の一般住民が亡くなりました。

(平成17年12月現在)

<ul style="list-style-type: none"> <li>●北海道</li> <li>函館市</li> <li>小樽市</li> <li>苫小牧市</li> <li>網走市</li> <li>留萌市</li> <li>旭川市</li> <li>室蘭市</li> <li>釧路市</li> <li>帯広市</li> <li>根室市</li> <li>本別町</li> <li>●青森県</li> <li>青森市</li> <li>八戸市</li> <li>●岩手県</li> <li>盛岡市</li> <li>花巻市</li> <li>釜石市</li> <li>宮古市</li> <li>一関市</li> <li>●宮城県</li> <li>仙台市</li> <li>石巻市</li> <li>塩釜市</li> <li>●秋田県</li> <li>秋田市</li> <li>●山形県</li> <li>酒田市</li> <li>●福島県</li> <li>福島市</li> <li>郡山市</li> <li>いわき市</li> <li>●茨城県</li> <li>水戸市</li> <li>日立市</li> <li>土浦市</li> <li>高萩市</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●栃木県</li> <li>宇都宮市</li> <li>足利市</li> <li>栃木市</li> <li>鹿沼市</li> <li>●群馬県</li> <li>前橋市</li> <li>高崎市</li> <li>桐生市</li> <li>伊勢崎市</li> <li>太田市</li> <li>●埼玉県</li> <li>さいたま市</li> <li>川越市</li> <li>熊谷市</li> <li>川口市</li> <li>●千葉県</li> <li>千葉市</li> <li>銚子市</li> <li>船橋市</li> <li>館山市</li> <li>木更津市</li> <li>松戸市</li> <li>市川市</li> <li>●東京都</li> <li>区部</li> <li>八王子市</li> <li>立川市</li> <li>武蔵野市</li> <li>●神奈川県</li> <li>横浜市</li> <li>川崎市</li> <li>平塚市</li> <li>藤沢市</li> <li>小田原市</li> <li>鎌倉市</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新潟県</li> <li>新潟市</li> <li>長岡市</li> <li>●富山県</li> <li>富山市</li> <li>高岡市</li> <li>●福井県</li> <li>福井市</li> <li>敦賀市</li> <li>●山梨県</li> <li>甲府市</li> <li>●長野県</li> <li>長野市</li> <li>上田市</li> <li>●岐阜県</li> <li>岐阜市</li> <li>大垣市</li> <li>●静岡県</li> <li>静岡市</li> <li>浜松市</li> <li>沼津市</li> <li>磐田市</li> <li>三島市</li> <li>伊東市</li> <li>島田市</li> <li>●愛知県</li> <li>名古屋市</li> <li>豊橋市</li> <li>岡崎市</li> <li>一宮市</li> <li>瀬戸市</li> <li>豊川市</li> <li>半田市</li> <li>春日井市</li> <li>津島市</li> <li>●三重県</li> <li>津市</li> <li>四日市市</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊勢市</li> <li>桑名市</li> <li>伊賀市</li> <li>鈴鹿市</li> <li>●滋賀県</li> <li>大津市</li> <li>彦根市</li> <li>長浜市</li> <li>●京都府</li> <li>京都市</li> <li>舞鶴市</li> <li>●大阪府</li> <li>大阪市</li> <li>堺市</li> <li>豊中市</li> <li>高槻市</li> <li>吹田市</li> <li>東大阪市</li> <li>守口市</li> <li>岸和田市</li> <li>池田市</li> <li>泉大津市</li> <li>枚方市</li> <li>●兵庫県</li> <li>神戸市</li> <li>姫路市</li> <li>尼崎市</li> <li>明石市</li> <li>西宮市</li> <li>芦屋市</li> <li>伊丹市</li> <li>相生市</li> <li>●奈良県</li> <li>奈良市</li> <li>●和歌山県</li> <li>和歌山市</li> <li>海南市</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有田市</li> <li>御坊市</li> <li>田辺市</li> <li>新宮市</li> <li>串本町</li> <li>那智勝浦町</li> <li>●鳥取県</li> <li>米子市</li> <li>●岡山県</li> <li>岡山市</li> <li>玉野市</li> <li>●広島県</li> <li>広島市</li> <li>呉市</li> <li>福山市</li> <li>●山口県</li> <li>下関市</li> <li>宇部市</li> <li>山口市</li> <li>周南市</li> <li>防府市</li> <li>下松市</li> <li>岩国市</li> <li>山陽小野田市</li> <li>光市</li> <li>●徳島県</li> <li>徳島市</li> <li>●香川県</li> <li>高松市</li> <li>●愛媛県</li> <li>松山市</li> <li>今治市</li> <li>宇和島市</li> <li>八幡浜市</li> <li>新居浜市</li> <li>●高知県</li> <li>高知市</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●福岡県</li> <li>北九州市</li> <li>福岡市</li> <li>大牟田市</li> <li>久留米市</li> <li>●佐賀県</li> <li>佐賀市</li> <li>●長崎県</li> <li>長崎市</li> <li>佐世保市</li> <li>島原市</li> <li>諫早市</li> <li>大村市</li> <li>●熊本県</li> <li>熊本市</li> <li>荒尾市</li> <li>宇土市</li> <li>八代市</li> <li>人吉市</li> <li>水俣市</li> <li>●大分県</li> <li>大分市</li> <li>別府市</li> <li>中津市</li> <li>日田市</li> <li>佐伯市</li> <li>●宮崎県</li> <li>宮崎市</li> <li>延岡市</li> <li>日南市</li> <li>日向市</li> <li>都城市</li> <li>高鍋町</li> <li>●鹿児島県</li> <li>鹿児島市</li> <li>薩摩川内市</li> <li>いちき串木野市</li> <li>阿久根市</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指宿市</li> <li>霧島市</li> <li>西之表市</li> <li>垂水市</li> <li>鹿屋市</li> <li>枕崎市</li> <li>日置市</li> <li>山川町</li> <li>穎娃町</li> <li>知覧町</li> <li>始良町</li> <li>加治木町</li> <li>●沖縄県(注2)</li> <li>那覇市</li> <li>名護市</li> <li>沖縄市</li> <li>浦添市</li> <li>糸満市</li> <li>宮古島市</li> <li>石垣市</li> <li>うるま市</li> <li>本部町</li> <li>嘉手納町</li> <li>西原町</li> <li>与那原町</li> <li>南風原町</li> <li>伊江村</li> <li>今帰仁村</li> <li>読谷村</li> </ul>
--	--	---	---	---	--	--

[注1] 沖縄県では、県下で地上戦が行われ、軍人以外の一般住民の死亡者が約10万人にもおよびました。このため「空襲や艦砲射撃など」に限定した被災状況を把握することがむずかしいので、

「50万人以上」の中には沖縄県の人数は含まれていません。  
[注2] 沖縄県については、規模の大きかった1944年(昭和19)10月10日の空襲を受けたおもな町村を記載しました。

この物語は戦争の悲惨さを次の世代に伝えるために、横浜大空襲の事実に基づいて制作したフィクションです。したがって、この物語に登場した人物や団体などは実在しません。

写真◎昭和三館、昭和のくらし博物館、  
へんてる株式会社、  
毎日新聞社、横浜市史資料室



この本を読んで、感想や作文をお寄せください

**社団法人 日本戦災遺族会**

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-3 ダイアン麹町ビル4F TEL.03-3264-5287

制作協力 / 株式会社NHK情報ネットワーク